

# 一緒に考えましょう

演題 「国際理解と『災後』の教育」

講演内容

「日本からの支援で東南アジア山岳少数民族の村々に建てられた学校との交流活動に、退職の六年前から取り組んできた。

現地の子どもたちを励ます取組みを福島県の小さな学校で行なっているなかで、東日本大震災、そして原発事故が起きた。今回の震災と原発事故は、戦後七十年に、新たな節目として位置づけられるべき日本の教育の大転換点ではないのだろうか？ 東南アジアの山奥の山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳から、何を学ぶことができるのだろうか。そこに、これからの新たな日本の教育が向かうべき方向への大きな示唆があると考えている。

多くの方々と、日本の子どもたちをよりよく育てる手だてを考える機会となれば幸いです。

講座



講演者  
**宍戸 仙助**  
(認定NPO法人アジア教育友好協会)

日時  
7月9日(木)午後2時から4時半(のち茶話会)

場所  
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
4階 大会議室(403)

東日本大震災と福島原発事故から5回目の夏が訪れました。本講座も25回目です。はたして私たちは災害復興について十分な議論を積み重ねて来たでしょうか。国民的な議論も進まず、被災者の声も届かないままに、原発避難地域への帰還政策が加速化しています。避難者は先が見えない中で将来への決断を迫られています。家田研究室では今年度から文科省系研究予算による新プロジェクト「被災者参画による原子力災害研究と市民復興モデルの構築：チェルノブイリから福島へ」を全国の研究者と立ち上げました。「一緒に考えましょう講座」でも被災者や避難者の視線に立って復興の現状に注目し、一緒に考え、行動したいと思えます。ご意見やご提案を心よりお待ちしております。今回の講師は、アジア各国で草の根活動を展開され、大震災後は被災地と世界の橋渡しに取り組んでおられる宍戸仙助さんです。「災後」という新視点から日本と世界の教育の未来についてお話をうかがいます。

主催者連絡先 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 家田研究室  
電話 090-2813-4907 メール: ieda.idea.ory@gmail.com

後援 NPO 法人みみをすますプロジェクト、北海道の自然と命のネットワーク



①メインストリートから  
人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)の正面玄関に入って右へ進み法学部棟に接続します。

②正門方面から  
附属図書館の正面玄関に入って直進し渡り廊下を通り法学部棟に接続します。

・法学部棟より2階上がります。  
・法学部棟2階に、当センターへの連絡通路がございます。(他からは接続できません)  
・当センター2階「事務室」奥の階段、またはエレベーターで4階へ上がってください。  
※各所の頭上に案内板がございます。あわせてご確認ください。

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
電話 | 011-706-2388(直通) FAX | 011-706-4952  
E-MAIL | src@slav.hokudai.ac.jp URL | http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/